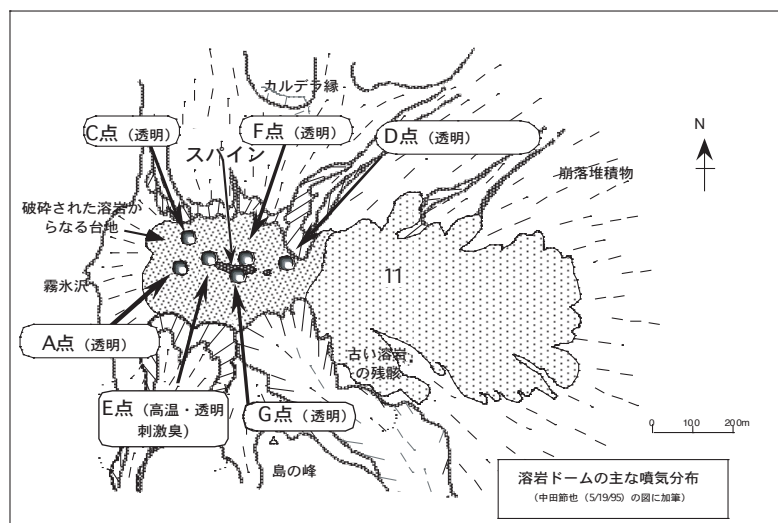
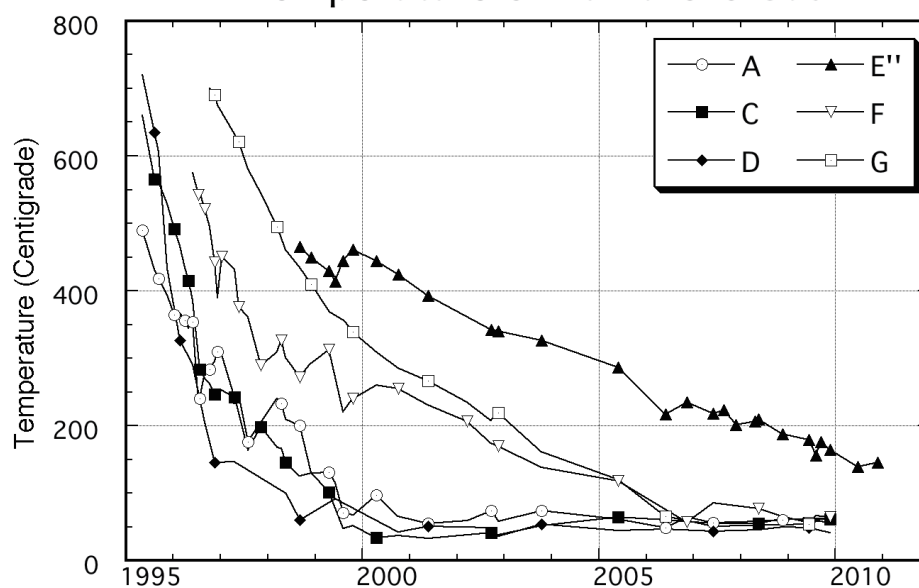


平成新山ドームの噴気ガスの温度変化



Temperature of Fumarolic Gas



E点における北川式検知管によるガス成分測定結果

測定日	噴気温度(°C)	CO2(ppm)	HCl(ppm)	SO2(ppm)	H2S(ppm)
6/12/2009	179	3800-4200	80-110	8-10	0
11/18/2009	165	2500-2800	90-100	8	0
6/24/2010	139	1800-2400	30-40	4-6	8-12
11/23/2010	146	2800-3000	70-80	3-4	6-7

●噴気ガスの温度は順調に低下している。2008 年秋以降は最高温度が摂氏 200 度を下回っており、2010 年 11 月 23 日測定での最高温度は E 地点の摂氏 146 度であった。

●E 点は活動末期に隆起した尖頂 (Spine) の西側の根元にあり、マグマの湧き出し口 (旧地獄跡火口) の直上にある。以前見られたモリブデン化合物は見られず、現在は硫黄の昇華物のみ肉眼で確認される。

●E 点では塩化水素が急激に減少し、そのかわり硫化水素が検出されるようになってきた。

*池端 慶・山下裕亮・松島 健・清水 洋